

新春対談

ガラス絵作家 児玉房子さん

新しい年が動き始めました。今年は、いっせいで地方選挙と参議院選挙の年です。再選をめざし東北、北海道、北関東を駆け巡る日本共産党の参院議員、紙智子さんと、平和や自然保護の思いを胸に創作を続けるガラス絵作家、児玉房子さんが日本の今と未来を語り合いました。

カッパ伝説の地

いくよつでした。静かなところですね。

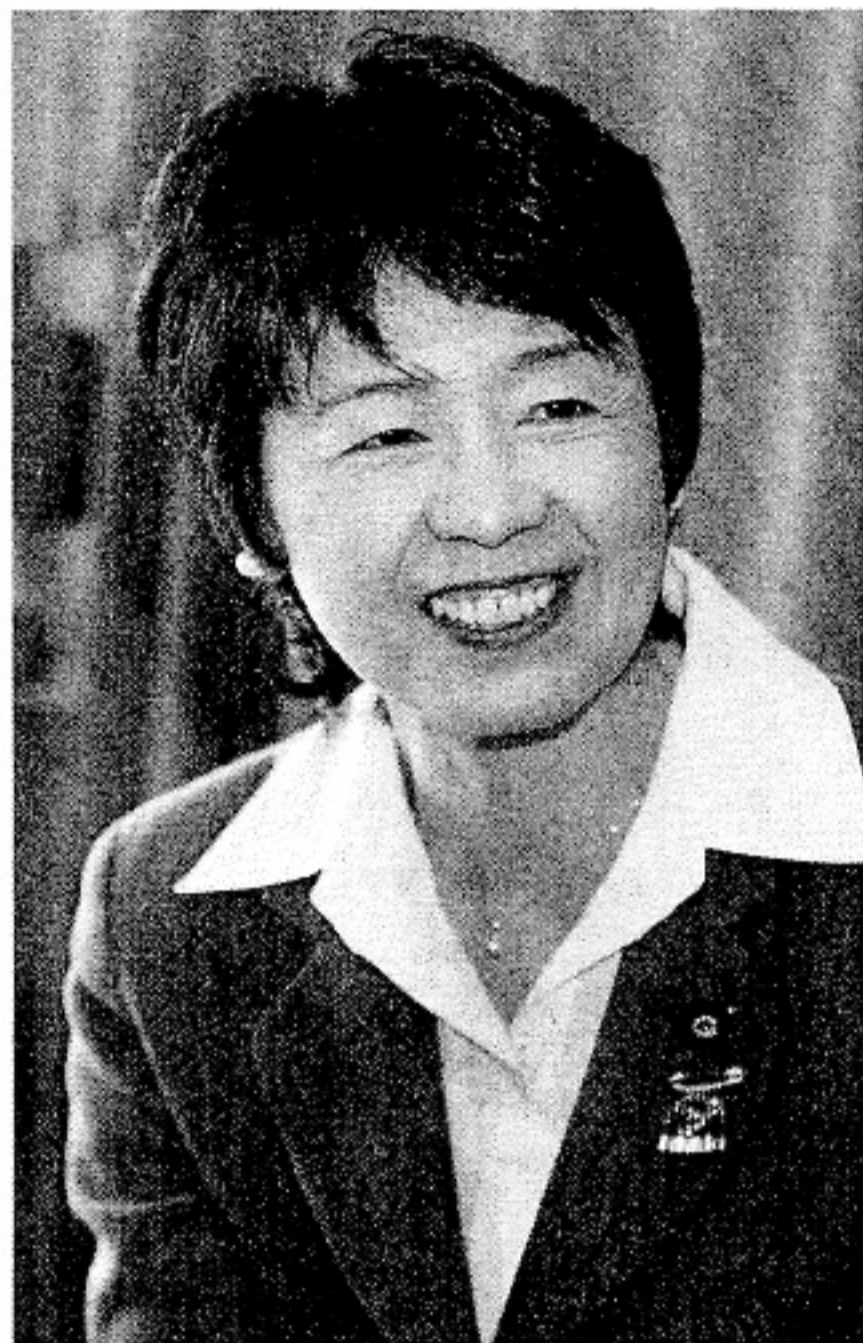
対談したのは岩手県遠野市附馬牛(つきもろし)の児玉さんの家。部屋にはまきストーブが燃え、周りの林には風が鳴っていました。

紙 遠野に来たのは初めてなんです。ここに来る途中に「カッパ淵」という静かなよみがある。『遠野物語』にあるカッパ伝説の地なのか、とうれしくなりました。

徳ヶ石川沿いに来ると、女神がいるという早池峰(はやちね)山が遠くに見える。『遠野物語』は家族総出で作業をしま

遠野の暮らし

①



紙智子さん



児玉房子さん

かみともこ 1955年札幌市生まれ。2001年の参院選挙で当選。農林水産、予算、沖縄北方特別委員会各委員。党中央委員、国会農水部会長。共著で『食の安全よりアメリカが大事?』

こだまふさこ 1941年東京生まれ。日本美術会会員、日本ガラス絵協会会員。11年前に遠野市に移住。著書に『ガラス絵に魅せられて』『女たちの遠野』『コスタリカ賛歌』

四季が楽しい。シカ、クマも……児玉

した。じいちゃん、ばあちゃん、両親と四人の子ども、多いときには、おじさんや手伝いの人を入れて十一人家族でした。「結い」というのがあって、だして入りま

紙 児玉さんの絵には、そうした自然のなかで豊かにふくらんだ感性や想像力が込められているんですね。

紙 今、農薬を使う農家が多くて、はだしては入れません。でも、わが家の田んぼは無農薬の自然農法だから生き物がいっぱいいます。草取りのときはブヨに刺されて顔がポコポコになっちゃうけれど、そんな田んぼだから、はだしても大丈夫。水虫だって治るし、ドロの薬効はすごいんですよ。名古屋の友人に「お金を出してドロ療法をするより、ここにいらっしやい。タダだから」と言っているの。(笑い)

自分流の生活

紙 ホタルも飛ぶの。児玉 飛ぶわよ。あの辺からホタルがポコポコとこちらにやってくると、それだけで癒やされて、「今日はいいい日だったなあ」としあわせな気持ちになる。寒い冬も葉を落とした林にキツツキが来て、チョン、チョンと木をたたくの。すると冬がとて楽しくなります。

子らに自然を

紙 今の子どもたちは自然に触れる時間や機会が少なくてかわいそうです。もっと土や水、風に触れさせてあげれば感性も豊かになり、体も丈夫になります。宮沢賢治の文学は東北の豊かな自然と、そこに生きるさまざまな生き物の描写に満ち満ちています。私は遠野に来て宮沢賢治の絵本を描けるのではないかと思いました。(つづく)

原風景は人間の生きる力に 紙